



No. 557/2024-02

医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読み下さい。

使用上の注意改訂のお知らせ

眼科用VEGF**)阻害剤

アフリベルセプト(遺伝子組換え)硝子体内注射液 生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品^{注)}

アイリーア® 硝子体内注射液 40mg/mL 硝子体内注射用キット 40mg/mL

※)VEGF: vascular endothelial growth factor(血管内皮増殖因子) 注)注意—医師等の処方箋により使用すること

2024年2月

発売元 参 天 製 薬 株 式 会 社 製造販売元 パイエル薬品株式会社

このたび、標記製品の「使用上の注意」を下記のとおり改訂致しましたのでお知らせいたします。今後のご使用に際しまして、「使用上の注意」に十分ご留意くださいますようお願い申し上げます。

- 記 -----

I. 改訂の概要

改訂項目	改 訂 概 要
8.重要な基本的注意	広域抗菌点眼剤の使用に関する具体的な投与期間を削除
9.8 高齢者	項目の削除
11.副作用	発現頻度を更新
14.1 薬剤投与前の注 意	包装等に破損等や期限切れの場合の注意、正しい濃度の製剤であることを 確認する旨の注意を追記

改訂内容につきましては医薬品安全対策情報(DSU)No. 324(2024年3月)に掲載される予定です。

最新の電子化された添付文書及び医薬品安全対策情報(DSU)は、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」 https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html にてご確認ください。

「添文ナビ」をダウンロードし、医薬品の外箱等に記載された GS1バーコードを読み取ると PMDA ウェブサイト上の最新の電子化された添付文書等を閲覧できます。

添文ナビの使い方は、下記の「添文ナビの使い方」をご参照ください。

https://www.dsri.jp/standard/healthcare/tenbunnavi/pdf/tenbunnavi HowToUse.pdf

アイリーア硝子体内 注射液 40mg/mL アイリーア硝子体内注射液

アイリーア硝子体内 注射用キット 40mg/mL アイリーア硝子体内注射用キット 電子添文



Ⅱ.「使用上の注意」改訂内容

改 訂 後

8. 重要な基本的注意

〈効能共通〉

- 8.1~8.2 (省略)
- 8.3 本剤の硝子体内注射の際には、下記の点に注意しな がら行うとともに、投与手技に起因する有害事象と して結膜出血、眼痛、硝子体浮游物等の有害事象が 多く報告されているので注意すること。「11.1.1、 11.2 参照]
 - ・硝子体内注射は、無菌条件下で行うこと。(手術 用手指消毒を行い、滅菌手袋、ヨウ素系洗眼殺菌 剤、滅菌ドレープ及び滅菌開瞼器等を使用するこ と。)
 - ・本剤投与前に、十分な麻酔と広域抗菌点眼剤の投 与を行うこと。

(以下省略)

改訂前

8. 重要な基本的注意

〈効能共通〉

- 8.1~8.2 (省略)
- 8.3 本剤の硝子体内注射の際には、下記の点に注意しな がら行うとともに、投与手技に起因する有害事象と して結膜出血、眼痛、硝子体浮游物等の有害事象が 多く報告されているので注意すること。「11.1.1、 11.2 参照]
 - ・硝子体内注射は、無菌条件下で行うこと。(手術 用手指消毒を行い、滅菌手袋、ヨウ素系洗眼殺菌 剤、滅菌ドレープ及び滅菌開瞼器等を使用するこ と。)

(バイアル製剤のみ)

・本剤投与前に、十分な麻酔と広域抗菌点眼剤の投 与を行うこと。(未熟児網膜症以外の患者に対し ては広域抗菌点眼剤は本剤投与3目前から投与後 3 日まで投与すること。)

(シリンジ製剤のみ)

・本剤投与前に、十分な麻酔と広域抗菌点眼剤の投 与を行うこと。 (広域抗菌点眼剤は本剤投与3日 前から投与後3日まで投与すること。)

(以下省略)

(削除)

9.8 高齢者

__処ヶ井理燃船が低下している

11. 副作用

(省略)

11.1 重大な副作用

11.1.1眼障害

眼内炎(0.2%)、眼圧上昇(3.4%)、硝子体はく離(1.0%)、 外傷性白内障(0.5%)、網膜出血(0.5%)、網膜色素 上皮裂孔(0.4%)、硝子体出血(0.3%)、網膜はく離 (0.04%) 、網膜裂孔 (0.06%) 、網膜色素上皮はく離 (0.02%) があらわれることがある。[8.3、8.4、9.1.1 参照]

[9.1.2、15.1.1参照]

11.1.2脳卒中(0.2%)

11.2 その他の副作用

	5%以上	1~5%未満	1%未満		
眼 ^{注)} (前眼 部)	結膜出血 (<u>16.0</u> %)	眼充血	白内障、角膜擦過傷、 角膜腫上皮欠損、 角膜角膜上皮质膜炎 角膜角膜上角膜炎、 角膜内細胞、前房内 力レア刺激、結膜所 光膜炎、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、		
眼 ^{注)} (後眼 部)		硝子体浮 遊物	硝子体細胞、硝子体 混濁、黄斑線維症、 黄斑浮腫、黄斑円孔、		

11. 副作用

(省略)

11.1 重大な副作用

11.1.1 眼障害

眼内炎(0.2%)、眼圧上昇(4.3%)、硝子体はく離 (1.2%)、外傷性白内障(0.7%)、網膜出血

(0.7%) 、網膜色素上皮裂孔 (0.4%) 、硝子体出血

(0.4%) 、網膜はく離(0.06%) 、網膜裂孔

(0.09%) 、網膜色素上皮はく離 (0.03%) があらわれ ることがある。 [8.3、8.4、9.1.1 参照]

11.1.2 脳卒中(0.2%)

[9.1.2、15.1.1参照]

11.2 その他の副作用

	5%以上	1~5%未 満	1%未満				
眼 ^{注)} (前眼部)	結膜出血 (22.8%)	眼充血、 点状角膜 炎	白角原 の				
眼 ^{注)} (後眼		硝子体浮 遊物	硝子体細胞、硝子体 混濁、黄斑線維症、				

改 訂 後			改 訂 前				
眼注)		注射部位	黄斑部瘢痕、網膜変性、網膜浮腫、網膜浮腫、網膜色素 下線維症、網膜色素上皮 脏、網膜分離症、硝 子体炎 注射部位刺激感、注	部)			黄斑浮腫、黄斑円 孔、黄斑部瘢痕、網 膜変性、網膜浮腫、 網膜下線維症、網膜 色素脱失、網膜色素 上皮症、網膜分離 症、硝子体炎
(注射 部位)	마ሎ	疼痛	射部位紅斑、注射部 位不快感、注射部位 乾燥、注射部位炎症、 注射部位浮腫、注射 部位腫脹、注射部位 血腫、注射部位出血	眼 ^{注)} (注射 部位)		注射部位 疼痛、注射部位出血	注射部位刺激感、注射部位紅斑、注射部位不快感、注射部位 乾燥、注射部位炎症、注射部位炎症、注射部位浮腫、注射部位腫脹、注射部位腫脹、注射部位血腫
眼 ^{注)} (その他)	眼痛	眼の異物感、眼刺激、流涙増加	眼脂、眼乾燥、眼そ う痒症、眼の異常感、 眼瞼浮腫、眼瞼縁縁症 皮、眼窩周囲血腫、眼瞼炎、 眼窩周囲血腫、眼 腫脹、視力障害、処置に よる疼痛、視力低下、 霧視、眼部不快感 そう痒症、紅斑	眼 ^{注)} (その 他)	眼痛	眼の異物 感、流、 り、 り、 り、 り、 り、 り、 り、 り、 り、 り、 り、 り、 り、	眼脂、眼乾燥、眼そ う痒症、眼炎異に 感、眼瞼浮腫、水 感流皮、眼瘤腫、 腺炎、眼部腫脹、 腫、眼腫腫、視力 害、変視症、光視 症、処置によ 痛、視力低下
循環器			高血圧、収縮期血圧	皮膚			そう痒症、紅斑
精神神			上昇 会話障害、頭痛	循環器			高血圧、収縮期血圧 上昇
経系消化器			悪心	精神神 経系			会話障害、頭痛
泌尿器			タンパク尿、尿中タ	消化器			悪心
その他			ンパク/クレアチニ ン比増加 不快感、鼻出血、薬	泌尿器			タンパク尿、尿中タ ンパク/クレアチニ ン比増加
CVAIR			物過敏症、針恐怖	その他			不快感、鼻出血、薬 物過敏症、針恐怖

14.1 薬剤投与前の注意

- 14.1.1 本剤は、注射前に室温に戻すこと。室温に放置 した時間が24時間を超えないように使用するこ と。未開封で室温に放置した時間が24時間を超え ない限り、再度冷蔵保存することができるが、必要 最小限に留めること。
- 14.1.2 目視による確認を行い、注射液に微粒子、混濁 又は変色が認められる場合、容器に破損が認められ る場合等、異常が認められる場合には使用しないこ
- 14.1.3 包装又は製品に破損や開封された跡がある場 合、又は期限切れの場合には使用しないこと。 (バイアル製剤のみ)
- 14.1.4 正しい濃度の製剤であることをバイアルのラベ ルで確認すること。

14.1 薬剤投与前の注意

:頻度の欄変更

14.1.1 本剤は、注射前に室温に戻すこと。室温に放置 した時間が24時間を超えないように使用するこ と。未開封で室温に放置した時間が24時間を超え ない限り、再度冷蔵保存することができるが、必要 最小限に留めること。

14.1.2 目視による確認を行い、注射液に微粒子、混濁 又は変色が認められる場合、容器に破損が認められ る場合等、異常が認められる場合には使用しないこ と。

Ⅲ. 改訂理由

今回の改訂は、すべて自主改訂によるものです。

● 「8. 重要な基本的注意」の項

硝子体内注射の際の広域抗菌点眼剤の投与に関して、具体的な投与期間を削除しました。

2016 年に公表された「黄斑疾患に対する硝子体内注射ガイドライン」では、「硝子体内注射薬の薬剤添付文書では、投与3日前から/投与2~3日後まで広域抗菌点眼薬を点眼することとされている。抗菌薬の術前/術後点眼の必要性については施設または施術者が個別に判断すべきである。」とされています。海外のガイドラインでは抗菌点眼剤の使用推奨が削除されており、本剤(以下、アイリーア 2mg 製剤)及びアイリーア 8mg 硝子体内注射液 114. 3mg/mL(以下、アイリーア 8mg 製剤)を用いて実施した、滲出型加齢黄斑変性患者を対象とした国際共同第III相試験(PULSAR 試験)及び糖尿病黄斑浮腫患者を対象とした国際共同第III/IIII相試験(PHOTON 試験)では、投与前後3日間の広域抗菌点眼剤を必須としていませんでした。

これらの試験でアイリーア 8mg 製剤群での眼内炎の発現割合は低く、アイリーア 8mg 製剤の使用 上の注意では広域抗菌点眼剤の投与期間を設定いたしませんでした。また、対照群としてアイリーア 2mg 製剤を投与された集団においてもアイリーア 8mg 製剤群と同様に低く、アイリーア 8mg 製剤と同様の記載とすることにいたしました。

● 「9.8 高齢者」の項

アイリーア 2mg 製剤での高齢者への注意は一般的な内容であり、記載要領の変更後に承認された同種同効薬でも設定されていないため、アイリーア 8mg 製剤では設定しませんでした。アイリーア 8mg 製剤の承認に伴い、整合性の観点から削除しました。

● 「11. 副作用」の項

副作用の発現頻度について、アイリーア 2mg 製剤における既承認の適応症を対象とした第Ⅲ相試験(12試験)及び、アイリーア 2mg 製剤及びアイリーア 8mg 製剤を用いて実施した PULSAR 試験・PHOTON 試験の計 14 試験の併合解析に基づき更新いたしました。なお、新たに追加された副作用はありません。

● 「14. 薬剤投与前の注意」の項

アイリーア 8mg 製剤では投与前の一般的な注意事項として 14.1.3 項を設定したため、アイリーア 2mg 製剤でも同様に設定いたしました。

また、硝子体内投与する薬剤の中で濃度の異なる製剤があるのはアイリーアのバイアル製剤のみであることから、アイリーア 2mg バイアル製剤とアイリーア 8mg 製剤との取り違えがないよう濃度を確認する旨を、14.1.4 項として設定いたしました。

製造販売元 [資料請求先] **バイエル薬品株式会社**大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001

https://byl.bayer.co.jp/
[コンタクトセンター]
0120-106-398
<受付時間> 9:00~17:30(土日祝日・当社休日を除く)

大阪市北区大深町4-20 http://www.santen.co.jp

問い合わせ先:製品情報センター TEL 0120-921-839 06-6321-7056 受付時間 9:00~17:00(土・日・祝日を除く)